

# 高知県長期漁海況予報

## 平成21年上半期(1～6月)の漁況・海況の予想

平成21年1月発行 高知県水産試験場

このたび、平成21年1月から6月を予測期間とした「平成20年度第2回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁況海況予報会議」が横浜市で開催されました。独立行政法人水産総合研究センター、高知県及び関係都道府県等の最新の調査結果から長期予報が作成されましたので、高知県関係を中心にその概要をお知らせします。

### 予報の概要

#### 海況

黒潮：黒潮は、都井岬沖～足摺岬沖では2～3月と6月に一時的に離岸傾向となるほかは接岸傾向で推移する。室戸岬沖～潮岬沖では期間を通して離岸傾向で推移する。  
沿岸水温：「平年並み」～「高め」で推移する。

#### 漁況

マイワシ： 前年並みから下回る

ウルメイワシ： 前年並みから下回る

カタクチイワシ： 前年並みから下回る

マアジ： 宿毛湾は前年並み、土佐湾以東は下回る

サバ類： 前年を上回る

\* 詳しい内容については次ページ以下をご覧ください。

# 海 況

## 【海況の経過（平成20年8月～12月）】

### 1. 黒潮

足摺沖では10月上旬に「やや離岸」したものの、概ね「接岸」傾向で推移しています。室戸岬沖では9月上旬及び11月上旬において「接岸」であった他は、概ね「離岸」傾向で推移しています。

以上のように、高知県沖における今期の黒潮は小規模な変動を示しつつ接岸～やや離岸で推移しました。

黒潮流軸位置階級区分（足摺岬、室戸岬）

階級区分	範囲（マイル）
接岸	<25
やや離岸	25 、 <45
かなり離岸	45 、 <65
著しく離岸	65

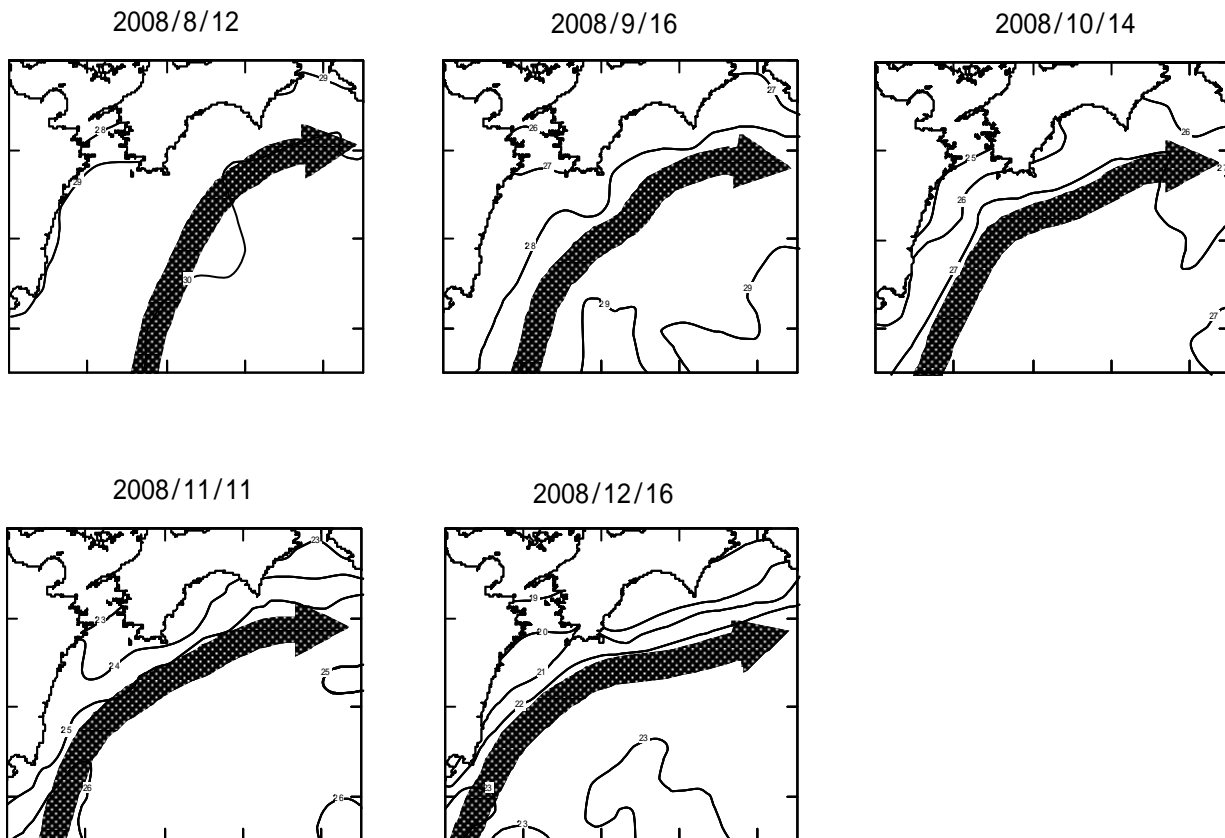


図1 NOAA 衛星海表面水温画像等から推定した黒潮流軸位置

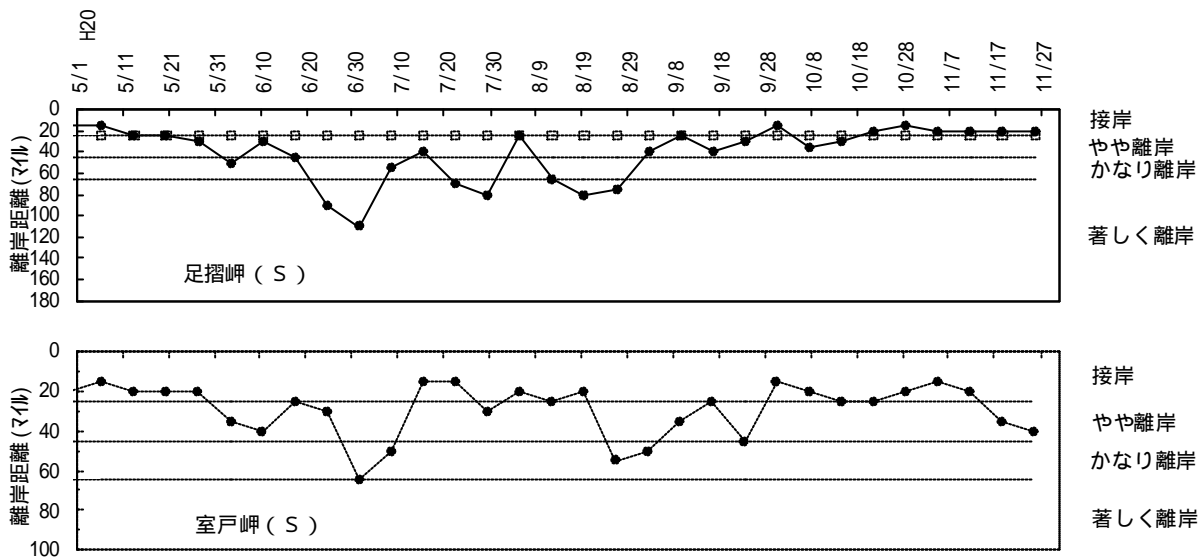


図2 足摺岬及び室戸岬からの黒潮流軸離岸距離（高知県漁海況速報より）

## 2. 沿岸水温

概ね「平年並み」で推移しましたが、10月の100m層で過去2番目の低水温が記録（1975年以降）されるなど、9月及び10月の100m以深において「かなり低め」の水温が観測されました。

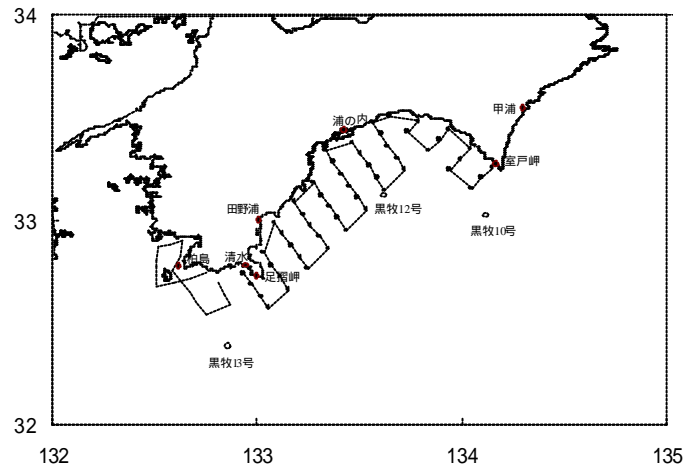


図3 土佐湾観測点

表2 土佐湾平均水温の平年偏差

水深	0m	50m	100m	200m
平成20年9月	- +	- +	- -	- -
平成20年10月	+ -	- -	- - -	- -
平成20年11月	+ -	+ -	- +	-
平成20年12月	- +	- +	- +	- +

表3 土佐湾水温平年偏差の階級区分

記号	呼称・内容	偏差範囲
+++	著しく高め	2.2 以上
++	かなり高め	1.3 ~ 2.2
+	やや高め	0.6 ~ 1.3
+-	平年並み (+ 基調)	0.0 ~ 0.6
---	著しく低め	-2.2 以上
--	かなり低め	-1.3 ~ -2.2
-	やや低め	-0.6 ~ -1.3
-+	平年並み (- 基調)	0.0 ~ -0.6

### 3 . 特異現象

#### 海況

- ・沿岸定線観測において、10月の100m層が過去2番目の低水温となりました（1975年以降、欠測年あり）。

#### 漁況

- ・土佐湾内でのシラス漁が不漁（平年比41.6%）
- ・宿毛湾における中型まき網でカタクチイワシが不漁（平年比25.9%）
- ・足摺岬沖におけるゴマサバ立縄漁が不漁（平年比39.0%）
- ・宇佐のウルメ多鉤釣が不漁（平年比12.3%）
- ・宿毛湾における中型まき網でマイワシが豊漁（平年比468.4%）
- ・宿毛湾における中型まき網でウルメイワシが豊漁（平年比308.2%）

#### 【今後の見通し（平成21年1～6月）】

##### 1. 黒潮

流型：潮岬以東の黒潮は、期間を通して規模の大きなC型流路で推移し、4～5月に一時的にB型流路となる見込みです。

四国沖の黒潮：黒潮は、都井岬沖～足摺岬沖では2月～3月と6月に一時的に離岸傾向となるほかは接岸傾向で推移する見込みです。また、室戸岬沖～潮岬沖では期間を通して離岸傾向で推移する見込みです。

##### （根拠）

人工衛星による日本南方海域の海面高度データを利用した小蛇行の形成・発達・東進の予測手法によっています。

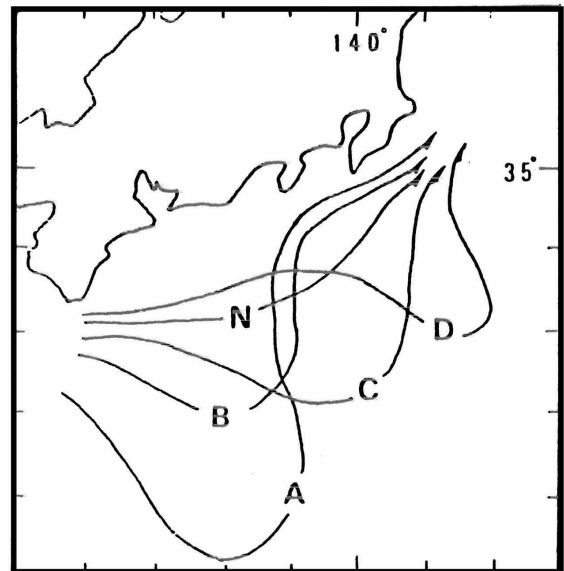


図4 黒潮の流型(吉田:1961、二谷:1969)

##### 2 . 沿岸の水温

「平年並み」から「高め」で推移する見込みです。

##### （根拠）

- ・高松地方气象台発表の「四国地方3か月予報」（11月25日発表、予報期間12～2月）によると、期間中の平均気温は「高い」か「平年並み」となっています。
- ・近年、土佐湾の表面水温は高め傾向で推移しています。

# 漁 況

## Ⅰ サバ類(ゴマサバ及びマサバ)

### 【漁況経過(平成20年8~11月)】

#### 1 高知県

(1)宿毛湾の中型まき網による漁獲量は871.4トン(以下、漁獲量は期間中の合計を示します)で、前年(40.6トン)を大きく上回り、平年(880.4トン 以下、平年とは平成9年から平成18年の10年間の平均値を示します)並みでした。まき網漁獲物の体長測定結果によると、魚種はゴマサバで、27~28センチ台の1才魚(平成19年生まれ)が主体でした。

(2)定置網(窪津・椎名2水揚地合計)による漁獲量は29.6トンで、前年(7.8トン)を上回り平年(63.8トン)を下回りました。漁獲物の体長測定並びに県東部室戸地区の2漁場(椎名、高岡)の定置網入網調査等の結果によると、主体はゴマサバでした。

(3)釣(立縄・多鈎釣等、土佐清水・加領郷・室戸・甲浦4水揚地合計)による漁獲量は217.4トシで、前年(320.2トシ)、平年(495.7トシ)を下回りました。魚体測定の結果では、漁獲の大半はゴマサバで前年同様3才魚(平成17年生まれ)以上のものが大半を占めました。

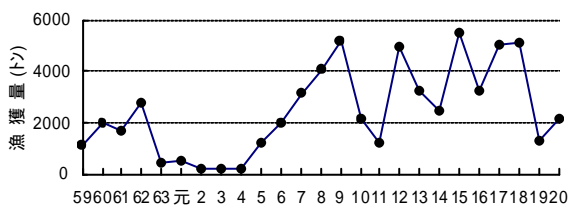


図 サバ類漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

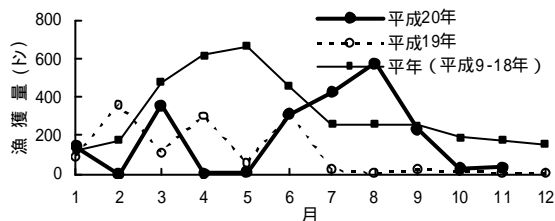


図 サバ類月別漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

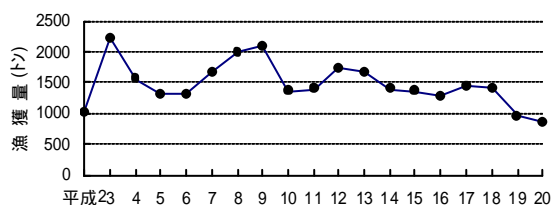


図 サバ類漁獲量の推移(清水・加領郷・室戸・甲浦:立縄等釣り)

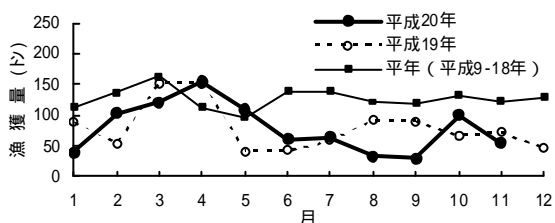


図 サバ類月別漁獲量の推移(清水・加領郷・室戸・甲浦:立縄等釣り)

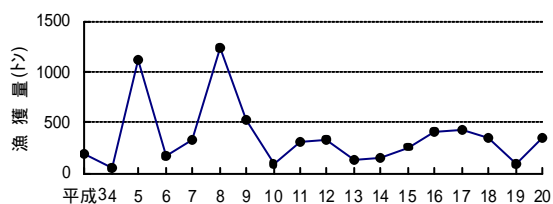


図 サバ類漁獲量の推移(窪津・椎名:大型定置網)

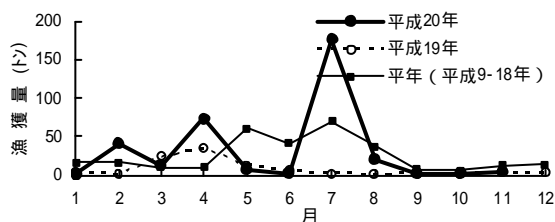


図 サバ類月別漁獲量の推移(窪津・椎名:大型定置網)

## 2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による8～11月の総漁獲量は、ゴマサバ主体に6,874トンで、前年比1,371%、  
平年比285%でした。

愛媛県：豊後水道のまき網では南部海域を中心に漁場が形成され、8～11月の総漁獲量は1,996ト  
ンで前年比527%、平年比147%でした。

和歌山県：紀伊水道外域の2そうまき網による8～11月の総漁獲量はゴマサバ主体に2,043.5トン  
で、前年比96%、平年比77%でした。

### 【漁況予測（平成21年1～6月）】

(1) 漁獲対象：1才魚(平成20年生まれ)、2才魚(平成19年生まれ)、3才魚(平成18年生まれ)

(2) 来遊水準：

- ・ゴマサバ：1才魚は前年を下回り、2才魚は前年を上回ります。3才魚以上を含めた全体としては、前年を上回ると考えられます。
- ・マサバ：1才魚、2才魚とも来遊量は前年を上回るものの、依然、低水準で推移する見込みです。

(参考)前年(平成20年)1～6月のサバ類漁獲量

宿毛湾の中型まき網 824.7 トン

定置網(窪津・椎名合計):137.1 トン

釣(立縄・多鈎釣等、清水・加領郷・室戸・甲浦4水揚地合計)585.2 トン

説明：

ゴマサバ：ゴマサバ太平洋系群の平成21年の資源の水準は「高位」、動向は「減少」と評価されています。このうち資源水準の高かった5才魚の残存資源量は減少しています。3、4才魚の資源水準は5才魚を大きく下回り、2才魚(平成19年生まれ)は近年の平均を上回り、1才魚(平成20年生まれ)は近年の平均を下回る低い水準であると推定されています。従って、期間中のゴマサバ全体としての本県への来遊量は、前年を上回るものと考えられます。

マサバ：マサバ太平洋系群の平成21年の資源の水準は「低位」、動向は「増加傾向」と評価されています。本県においても幼魚の来遊量調査等の結果から、2才魚、1才魚の期間中の本県への来遊量は前年並み、ないし上回るものと考えられますが、マサバ全体としての来遊量は、依然、低水準に推移するものと考えられます。

## II マアジ

### 【漁況経過（平成20年8～11月）】

#### 1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は503.0トンで、前年(549.2トン)を下回り、平成(508.7トン)並みでした。銘柄別では、150g以上の「アジ」が52.4トンで、前年(97.4トン)、平成(140.0トン)を下回りました。150g未満の銘柄「ゼンゴ」は450.7トンで、前年(451.7トン)並みで平成(368.7トン)を上回りました。漁獲物の体長測定結果等によると、0才魚を主体に漁獲されていたと思われます。
- (2) 定置網(窪津・椎名2水揚地合計)による漁獲量は111.8トンで、前年(63.3トン)、平成(93.4トン)を上回りました。漁獲物の体長測定結果等によると、0才魚を主体に漁獲されていたと思われます。

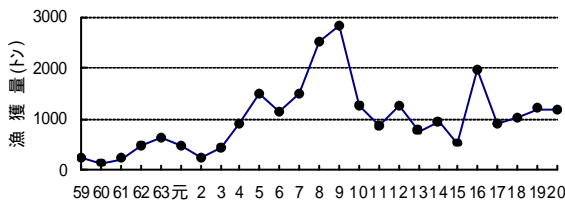


図 マアジ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

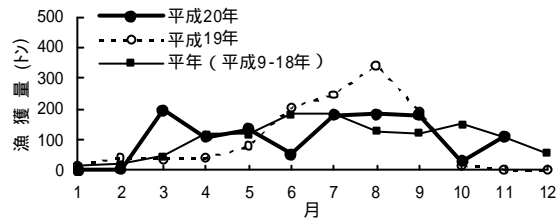


図 マアジ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

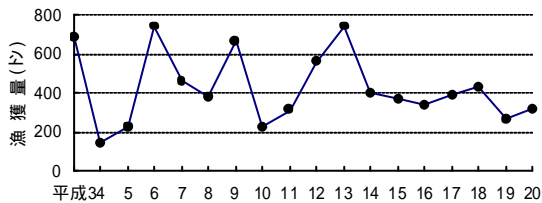


図 マアジ漁獲量の推移（窪津・椎名：大型定置網）

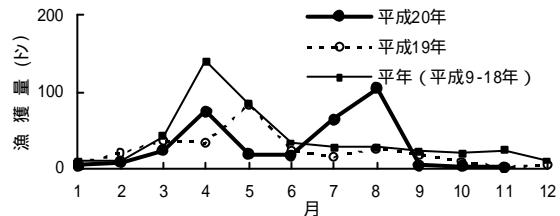


図 マアジ月別漁獲量の推移（窪津・椎名：大型定置網）

#### 2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による8～11月の総漁獲量は794トンで、前年比24%、平成比8%ときわめて不漁でした。

愛媛県：豊後水道では中・南部海域を主体に漁場が形成され、8～11月の総漁獲量は1,586トンで、前年比66%、平成比88%でした。

和歌山県：紀伊水道外域2そうまき網による8～11月の漁獲量は、416.8トンで、前年比37%、平成比42%でした。

### 【漁況予測（平成21年1～6月）】

- (1) 漁獲対象：0才魚（平成21年生まれ）、1才魚（平成20年生まれ）主体。
- (2) 来遊水準：宿毛湾では前年並み、土佐湾以東では前年を下回ると考えられます。

(参考)前年(平成20年)1～6月のマアジ漁獲量

宿毛湾の中型まき網:491.3 トン

定置網(窪津・椎名合計):144.2 トン

説明：

宿毛湾では1才魚（平成20年生まれ）の漁獲量が前年並みであったことから、来遊量は前年並みと考えられます。一方、土佐湾では1才魚の来遊量が少なかったことから、来遊量は前年を下回ると考えられます。

## III マイワシ

### 【漁況経過（平成20年8～11月）】

#### 1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は1,145.6 トンで、きわめて好漁であった前年(4,064.9 トン)を下回ったものの、平年(219.7 トン)を大きく上回りました。漁獲は10、11月に集中して行いました。漁獲物の体長測定結果によると、10月には体長13cm台と16cm台のいずれも0才魚（平成20年生まれ）を主体に19cm台の1才魚（平成19年生まれ）も漁獲されていました。11月は体長16～17cm台の0才魚（平成20年生まれ）が主体でした。
- (2) 定置網(窪津・椎名2水揚地合計)による漁獲量は10.5 トンで、前年(45.9 トン)、平年(41.5 トン)を下回りました。漁獲は10月に集中し、主体は体長11～14cm台の0才魚（平成20年生まれ）でした。また、7月上旬には県西部の定置網に体長19cm台の1才魚（平成19年生まれ）のまとまった入網がありました。



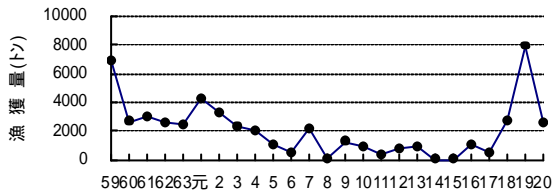


図 マイワシ漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

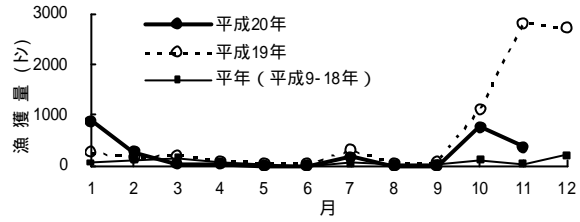


図 マイワシ月別漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

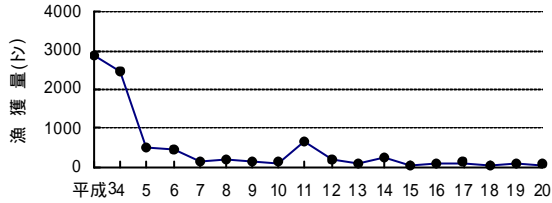


図 マイワシ漁獲量の推移(窪津・椎名:大型定置網)

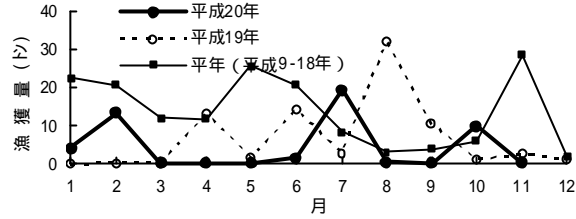


図 マイワシ月別漁獲量の推移(窪津・椎名:大型定置網)

## 2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による8～11月における総漁獲量は0トンでした。

愛媛県：豊後水道のまき網では中・南部に若干の漁がみられ、8～11月における総漁獲量は1.3トンでした。

和歌山県：紀伊水道外域東部から熊野灘の1そうまき網による8～11月の総漁獲量は15.4トンで、前年比5.1%、平年比9.3%でした。

### 【漁況予測(平成21年1～6月)】

- (1) 漁獲対象：1才魚(平成20年生まれ)主体に2才魚(平成19年生まれ)が混じると考えられます。期の後半には0才魚(平成21年生まれ)も漁獲されます。
- (2) 来遊水準：前年並みから前年を下回ると考えられます。

(参考)前年(平成20年)1～6月のマイワシ漁獲量

宿毛湾の中型まき網:1,236.7トン

定置網(窪津・加領郷・椎名合計):19.4トン

説明：マイワシ太平洋系群の資源量は依然低水準で推移しており、本県を除く近隣海域ではきわめて低調な漁況となっています。本県では、今後の漁獲の主体となる1才魚(平成20年生まれ)は平年を上回る漁況で推移しているものの、その水準は好漁となった前年には及ばないと考えられます。昨年的好漁を支えた2才魚(平成19年生まれ)もある程度の残存は見込めるものの、前年を上回るまでは至らないと考えられます。期の後半には0才魚(平成21年生まれ)も来遊

しますが、その水準は現時点では分かりません。これらのことから、全体として前年並みから下回る来遊と考えられます。

#### IV カタクチイワシ

##### 【漁況経過（平成20年8～11月）】

##### 1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は4.5トンで、前年(750.9トン)、平年(67.5トン)を大きく下回りました。銘柄別では幼魚「ド口」が4.5トンで、前年(2.3トン)を上回り平年(18.9トン)を下回りました。未成年・成魚の銘柄「タレ」は0トンで、前年(748.6トン)、平年(48.5トン)を下回りました。

(2) 定置網(窪津 椎名2水揚地合計)による漁獲は10.1トンで、前年(2.3トン)、平年(1.2トン)を上回りました。

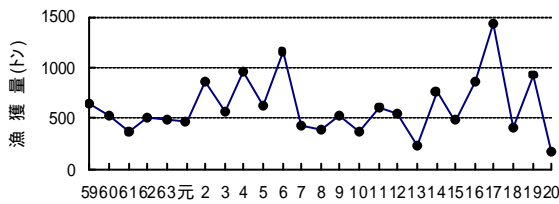


図 カタクチイワシ漁獲量の推移(中型まき網：宿毛湾)

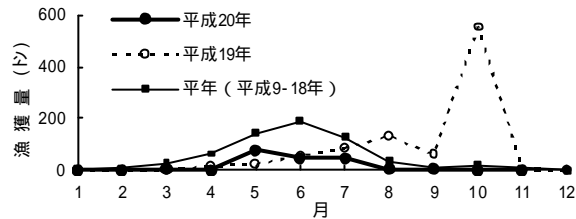


図 カタクチイワシ月別漁獲量の推移(中型まき網：宿毛湾)

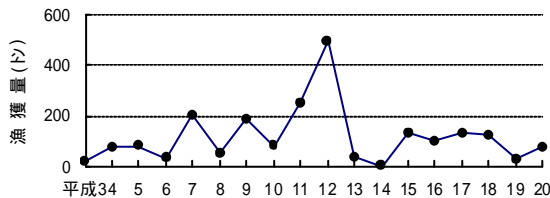


図 カタクチイワシ漁獲量の推移(窪津・椎名：大型定置網)

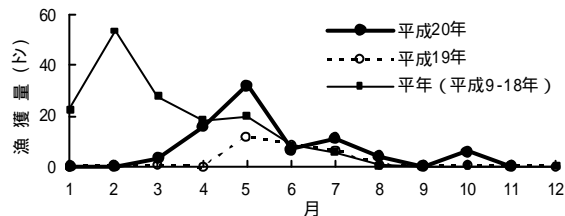


図 カタクチイワシ月別漁獲量の推移(窪津・椎名：大型定置網)

##### 2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による8～11月の総漁獲量は56トンで、前年比8%、平年比7%でした。

愛媛県：豊後水道では中・南部海域を中心に漁場が形成され、8～11月の総漁獲量は331.4トンで前年比19%、平年比23%でした。

和歌山県：成魚は主たる漁獲対象ではありません。

##### 【漁況予測（平成21年1～6月）】

カタクチイワシ太平洋系群の資源水準は高位、動向は減少傾向にあると考えられます。高知県海

域では下半期に主たる漁獲対象にならないため、県下の漁況経過から動向を判断することが出来ません。しかし、近隣の各県の漁況経過が低調に推移していることや、本県も含めた近隣海域におけるカタクチワシシラスの漁況も低調に推移していることから、本県海域でも低水準の来遊となることが考えられます。

## V ウルメイワシ

### 【漁況経過（平成20年8～11月）】

#### 1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は762.1トシで、前年(330.7トシ)、平年(416.4トシ)を上回りました。体長測定から0才魚(平成20年生まれ)を主体に漁獲していたと考えられます。
- (2) 定置網(窪津・椎名2水揚地合計)による漁獲量は39.6トシで、前年(44.4トシ)、平年(54.4トシ)を下回りました。
- (3) 宇佐漁協の多鈎釣漁(土佐湾中央部)による漁獲量は2.1トシで、前年(2.7トシ)、平年(17.7トシ)を下回りました。

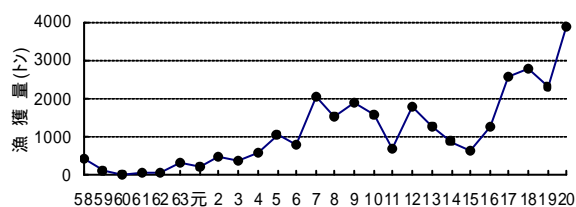


図 ウルメイワシ漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

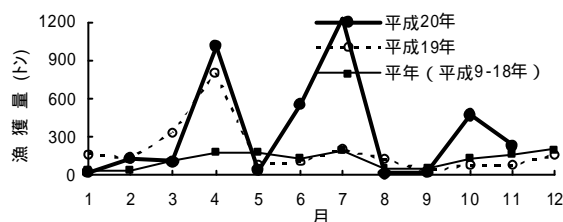


図 ウルメイワシ月別漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

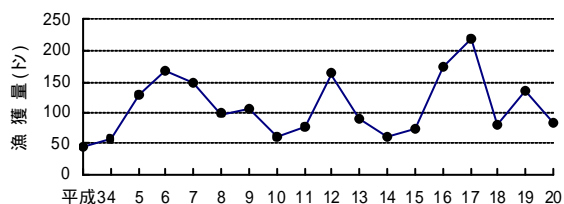


図 ウルメイワシ漁獲量の推移(窪津・椎名:大型定置網)

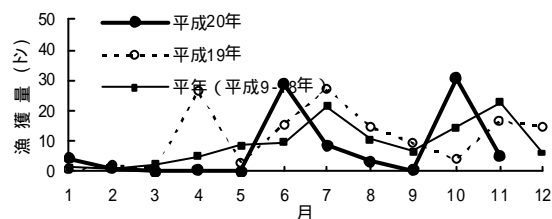


図 ウルメイワシ月別漁獲量の推移(窪津・椎名:大型定置網)

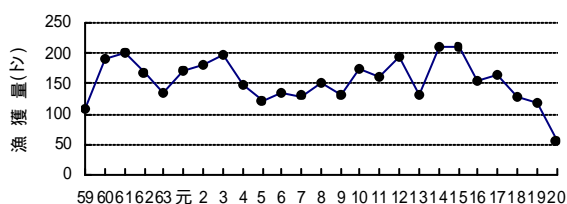


図 ウルメイワシ漁獲量の推移(宇佐:土佐湾中央部 多鈎釣)

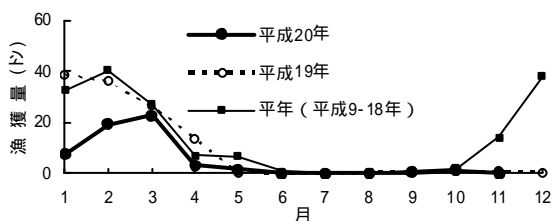


図 ウルメイワシ月別漁獲量の推移(宇佐:土佐湾中央部 多鈎釣)

## 2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による 8～11 月の総漁獲量は 2,711 トンで、前年同期比 46%、平年比 77% でした。

愛媛県：豊後水道は南部海域を中心に漁場が形成され、まき網による 8～11 月の総漁獲量は 512.4 トンで、前年比 34%、平年比 90% でした。

和歌山県：紀伊水道外域東部から熊野灘における 1 そうまき網は、8～11 月の総漁獲量が 5.5 トンで、前年比 3%、平年比 4.6% でした。

### 【漁況予測（平成 21 年 1～6 月）】

(1) 漁獲対象：1 才魚（平成 20 年生まれ）主体に、期の後半には 0 才魚（平成 21 年生まれ）も漁獲されます。

(2) 来遊水準：前年並から下回ると考えられます。

### (参考)前年(平成 20 年)1～6月のウルメイワシ漁獲量

宿毛湾の中型まき網 1,886.7 トン

定置網(窪津・椎名合計) 34.5 トン

多鈎釣漁(宇佐漁協) 54.5 トン

### 説明：

ウルメイワシの資源水準の指標となる産卵量は、土佐湾を中心として高水準にあり、資源状態は良いと判断できます。しかし、近隣県も含めた上半期の漁況経過から、今後の主体となる 1 才魚（平成 20 年生まれ）の来遊状況が悪いと考えられることから、高水準にはあるものの前年並みから前年を下回る来遊と考えられます。

## VI シラス

### 【漁況経過（平成 20 年 8～11 月）】

#### 1 高知県

機船船曳網(安芸地区 4 水揚地・春野町・錦浦・田野浦 7 水揚地合計)による漁獲量は 41.8 トンで、前年(15.0 トン)を上回り平年(136.1 トン)を下回りました。魚種組成はカタクチイワシが主体でした。

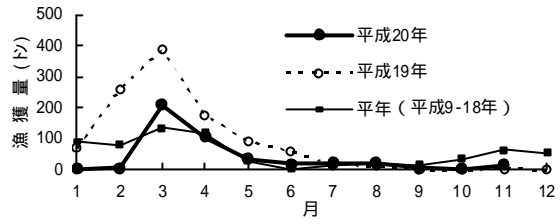
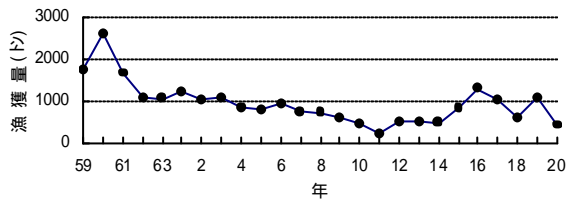


図 シラス漁獲量の推移 (安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計7漁協) 図 シラス月別漁獲量の推移 (安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計7漁協)

## 2 周辺各県の経過

宮崎県：8～11月の総漁獲量は1,328トンで、前年比96%、平年比119%でした。

大分県：佐伯湾における8～11月の漁獲量は61トンで、前年比297%、平年比49%でした。

徳島県：紀伊水道内における8～11月の漁獲量は645トンで、前年比124%、平年比80%でした。